

「学習センターを目指した学校図書館」

～子どもたちの学力向上に向けて～

(内容)

学校は現在校舎建て替え中のため、図書館はプレハブ校舎内にあり決して恵まれた条件にはないが、昼休みには毎日 30 数名が利用、放課後はボランティアの手を借りてほぼ毎日開館できている。土曜日は学習会などで活用されており、作文教室の実施やその後の調理実習などにも参加する生徒も見られ、図書館は生徒たちの人気スポットとなっている。問題点としてはかなり狭いこと、バーコード化がされていないこと、蔵書の偏りが大きく 900 番台が多いことがあげられ、インターネットに接続されたパソコンの導入も課題である。

また、授業で使える図書館を目指して、西淀川図書館と連携し、団体貸し出しの利用や、おはなしボランティアによるストーリーテリングも実施している。

本校は外国につながるのある生徒が多いこともあり、自国の文化を紹介するリーフレットの作成をした。(本日会場内に展示)他にも辞書を利用して篆刻にも挑戦、出品したり、毎年 11 月 23 日に大阪市立中央図書館で実施される書評漫才グランプリに出場したりなど、さまざまな取り組みをして、子どもたちの憩いの場となる図書館を目指している。

(質疑応答)

Q：土曜日の学習会には、どの教員が参加しているのか。

A：自分以外に、元気アップコーディネーター、学校で部活をしている先生の参加がある。

Q：自分の学校では、毎週火曜日に塾の先生をしている卒業生が英語を教えに来てくれているが生徒が2～3名しか参加していない。どうすれば本を読む子が増えるのか。

A：学習会を足掛かりに本にも関心を向ける生徒が増えてきた。国語の教科書の章末に紹介されている本は必ず図書館で購入し、授業でも伝えている。

Q：篆刻展や読書散歩への参加の際の交通費や保険はどうなっているのか。

A：案内を配布し、申し込み書（保護者印あり）の提出のあった生徒がクラブ活動扱いで参加している。入場料は中学生無料のところが多く、交通費は生徒負担。

Q：書評漫才に参加する生徒はどうやって募集するのか。

A：新入生の部活紹介で実演し、集まった生徒と台本を作り、練習し、文化祭で発表した後、グランプリに出場している。なお、ビブリオバトルも参加希望者がいる時には実施している。